

—スタッフ—

役 職	スタッフ名
ICU/CCU 部長 兼心臓血管外科部長 兼リハビリテーションセンター副センター長	松江 一
医 長	北林 克清
医 員	後藤 隆純
非常勤医員	山本 淳平

—概要—

近年、循環器疾患の治療を要する患者さんは、高齢化、他疾患の併存など、その背景が大きく変化し、ますますハイリスクとなっている。これらの患者さんに対して、専門施設による急性期治療だけでは、ADLやQOLを保ちつつ予後を改善することは困難である。専門施設においては、患者さんを中心に、医師、看護師、薬剤師、リハビリテーション療法士、臨床工学士、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種からなるチームが連携し、急性期診療を行うことが必須である。また、慢性期の日常臨床においては、患者さん、かかりつけの先生方(病診・病病連携)、専門施設が連携し、患者さんや地域の背景に適した診療を行うことが大切となる。りんくう総合医療センター心臓センターは、これまで泉州地域の心臓病診療の中核的な役割を担ってきたが、りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターとの統合を機に、一元化した循環器救急診療を運営するようになり、極めて強力な診療チームが結成された。この新しい循環器救急システムは現在では確実な実績を上げようになっている。

心臓血管外科領域の治療においては、このような患者さん及び社会背景の中、重症な病態の患者さんに質の高い医療を提供すること、また、ハイリスクな患者さんに、より「低侵襲」な治療を行うことが求められている。低侵襲治療に関しては、既に臨床応用され広く普及しつつある大動脈カテーテル治療に加え、大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療も本邦に導入されている。新しい治療法やデバイスが盛んに開発されており、今後益々発展する領域である。

当科では、従来の冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、大動脈、末梢血管手術に加え、大阪大学心臓血管外科と連携し、高度な大動脈カテーテル治療を行っている。また、一般病院では治療困難な重症心不全の患者さんに対し、植込み型補助心臓や再生治療等の医療を受けて頂く橋渡しを行っている。

—実績—

2013年1月1日～12月31日

心臓血管外科では、冠動脈疾患、心臓弁膜症、成人先天性心疾患、大動脈瘤、末梢動脈閉塞、静脈瘤などに対する外科治療を行っている。冠動脈バイパス術、弁膜症手術、胸部大動脈を含む心臓手術数は、81件であった。また、手術総数は188件であった。

大動脈カテーテル治療を33例(胸部8例、腹部25例)に行った。